

ALLEN & HEATH

avantis

スタートガイド



Avantis

※開始する前に、[www.allen/-heath.com](http://www.allen-heath.com/)を参照し、最新のAvantisファームウェアを確認してください。<http://www.allen-heath.com/>

■安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 水に入れたり、ぬらしたりしないでください。火災や感電の原因になります。
- AC100V 50/60Hzの電源で使用してください。これ以外の電源では、火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。
- 付属の電源ケーブルを他の製品に使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因になります。電源コードが傷んだら（断線や芯線の露出など）、直ちに使用を中止し販売店に交換をご依頼ください。
- 水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災や感電の原因となります。
- 万一、落したり筐体を破損した場合は、直ちに使用を中止し、修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

注意

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・湿気の多い場所
 - ・温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ほこりの多い場所
 - ・振動の多い場所
- 機器をラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具（オプション）を使用し、重量を支えるために全てのネジをしっかり固定してください。落下すると、けがや器物を破損する原因となります。
- 配線は、電源コードを抜いてから説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。
- 機器の移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときに、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災や感電の原因となります。

梱包内容

梱包内容をご確認ください。

- Avantis デジタルミキシングコンソール
- 安全上のご注意、電子マニュアルのご案内
- 電源ケーブル

目次

安全上のご注意	3
梱包内容	4
目次	4
1. はじめに	5
2. 接続と起動	6
2.1 電源の投入	6
2.2 タッチフェーダーのキャリブレーション	6
2.3 テンプレートショーのリコール	6
2.4 エキスパンダーとの接続	6
2.5 電源を切る	6
3. dPackの有効化	7
4. リアパネル	8
5. フロントパネル	9
6. トップパネル	10
6.1 フェーダーストリップ	11
6.2 ディスプレイ	12
7. ミックスの基本	13
7.1 メインミックスの操作	13
7.2 センドの操作: マスターミックスモード	14
7.3 センドの操作: チャンネルミックスモード	14
7.4 Mix、Group、DCAへのチャンネルアサインとアサイン解除	15
7.5 フェーダーセンドとロータリーセンドの切り替え	15
7.6 プリ/ポストフェーダーセンドステータスの設定	15
8. 寸法	16
9. フライトケースに関して	17
10. エキスパンダー、I/Oカード、コントローラー	18
10.1 エキスパンダー	18
10.2 I/Oカード	18
10.3 リモートコントローラー	18
10.4 パーソナルモニターのみキシング	18
11. 仕様	19

1. はじめに

Avantisは、64チャンネル96kHzデジタルミキシングコンソールです。ライブサウンドアプリケーションで強力なソリューションを提供します。高品位なオーディオは、低レイテンシーで伝送され、包括的な信号ルーティングとプロセッシングは、2枚の15.6インチフルHDタッチスクリーンから容易にアクセス可能です。

AvantisはDEEPプロセッシング・チャンネル・プラグインをオプションで用意しており、ディレイやハードウェアを追加する必要がなく、世界レベルのハードウェアエミュレーションを使用できます。詳細については、allen-heath.com/avantisをご覧ください。

SLinkポートは、リモートI/OエキスパンダーであるGX、DX、AB、ARシリーズ、リモートハブのDX-HUBのプラグ & プレイ操作を実現します。さらに、SLinkは、2台目のAvantisミキサーまたはdLive/SQシステムを用いたデジタルスプリットアプリケーションに使用できます。

MEパーソナルモニタリングシステムとの互換により、演奏者は、ME-1およびME-500パーソナルミキサーで、自分自身のモニターミックスをコントロールできます。

デジタルオーディオネットワークカードも、gigaACE、Dante、MADI、およびWaves SoundGridなどのプロトコルから、他のデジタルオーディオシステムと統合するために利用可能です。

Avantisの主な機能

- XCVI FPGAコア
- 96kHzサンプリングレート、96bitアキュムレーター
- 0.7msの低レイテンシー
- 64系統フルプロセッシングの入力チャンネル(フィルター、ゲート、PEQ、コンプレッサー、インサート)
- 42系統の構成可能なミックス出力
- DEEPプロセッシング・チャンネル・プラグイン
- 専用のリターンを搭載した12系統のラックFX
- 16系統のDCAs
- 2枚の15.6インチフルHD静電容量式タッチスクリーン
- 全てアサイン可能なレイアウト
- 144系統のフェーダーストリップ(24フェーダー、6レイヤー)、オプションの専用マスターセクション
- リモートI/OエキスパンダーおよびMEパーソナルモニタリングシステムに接続するSLinkポート
- 各12系統のアナログXLR入力/出力端子
- ステレオAES入力 × 1 / ステレオAES出力 × 2
- I/Oポート × 2(どちらも96kHz、128ch × 128ch操作が可能)
- ピンチ、スワイプ、ドラッグ & ドロップによる直感的な操作性
- ユーザー設定可能なロータリーコントロール
- 24個のアサイン可能なソフトキー
- ピーク検出による総合的なマルチポイントメータリング
- USB再生と内部録音のエクスポート
- BNCワードクロック

Avantisについて詳しくは、Allen&Heathのウェブサイトを参照してください。

2. 接続と起動

2.1 電源の投入

ロックスイッチがオフになっていることを確認します。同梱している電源ケーブルを差し込みます。必要に応じて、T20トルクスドライバーを使用してケーブルをプラスチッククリップに引っ掛けて固定ネジを外します。ロックスイッチを使用してミキサーの電源を入れます。

2.2 タッチフェーダーのキャリブレーション

最初に使用するときは、フェーダータッチ感度をキャリブレーションするために、Utility / Utility / Calibrationに進んでCalibrate Fader Touchを選択します。その後、LバンクとAllを選択し、画面上の指示に従って、指示されたバンク内の最初のフェーダーにのみ触れてください。

完了したら、Rバンクの工程を繰り返し、指示されたバンク内の最初のフェーダーにのみ触れます。

2.3 テンプレートショーのリコール

Avantisのオーディオアーキテクチャー、コントロールレイアウト、ソケットパッチは全て設定が可能です。使い慣れたアーキテクチャーと論理的なレイアウトをすばやくスタートポイントとして提供するためにクラシックなコンソール形式のショーファイルをテンプレートショーに用意しています。

テンプレートショーをロードするには、Utility/Memory/Show Managerに移動し、使用可能なテンプレートショーのいずれかを選択し、Recallをタップして確定します。

※ショーをリコールすると、バス構成、コントロールレイアウト、現在のパラメーター、すべてのシーン、ライブラリプリセットなど、すべてのシステム設定が書き込まれます。現在の設定を保存する場合は、まずUser Showとして保存してください。

※詳細については、Avantisソフトウェア取扱説明書を参照してください。<http://www.allen-heath.com/>

2.4 エキスパンダーとの接続

リモートエキスパンダーとSLinkポートの間に、CAT5e以上のケーブル(ケーブル長:最大100m)を接続します。

※ケーブルの要件、推奨事項、オプションのケーブル製品に関してはwww.allen-heath.comを参照してください。
<http://www.allen-heath.com/>

リモートエキスパンダーのスイッチを入れます。リンクが確立されると、SLinkポート Lnk//Errインジケータが一定の速度で点滅します。通信エラーを検出すると、赤いエラーインジケータが点灯します。ケーブルが正しく接続されており、故障していないことを確認してください。

以下のリモートエキスパンダーは、Avantis SLinkポートと互換性があります:

リモートエキスパンダー	サンプリングレート	プロトコル
GX4816	96kHz	GX
DX32, DX168,DX164-W, DX012, DX-HUB	96kHz	DX
AR2412, AR84	48kHz	dSnake
AB168	48kHz	dSnake

※ I/Oエキスパンダーの詳細については、www.allen-heath.com/everything-io/を参照してください。
<http://www.allen-heath.com/everything-io/>

2.5 電源を切る

システムの電源は適切に切る必要があります。Utility / Status / Homescreenに移動し、Power Downボタンを押します。切断動作が完了してから、ミキサーとエキスパンダーの電源スイッチを使ってオフにします。

※システムが正しく切断されない場合、直近の変更が失われる可能性があります。

※上記の手順でシステムの電源が切られていない場合、次の電源投入時にNot Shut Down Correctly(正しくシャットダウンしていません)の画面が表示されます。

3. dPackの有効化

Avantis dPackを使用してコンソールをアップグレードすれば、Dyn8(最大16インスタンス)、DEEP Compressors、Dual Stage Valve Preampや追加モデルを含むdLiveプロセッシングにアクセスできるようになります。

dPackアップグレードでAvantisを購入した場合は、12文字のバウチャーコードが提供されています。

dPackバウチャーコードを使用してアップグレードを有効化する:

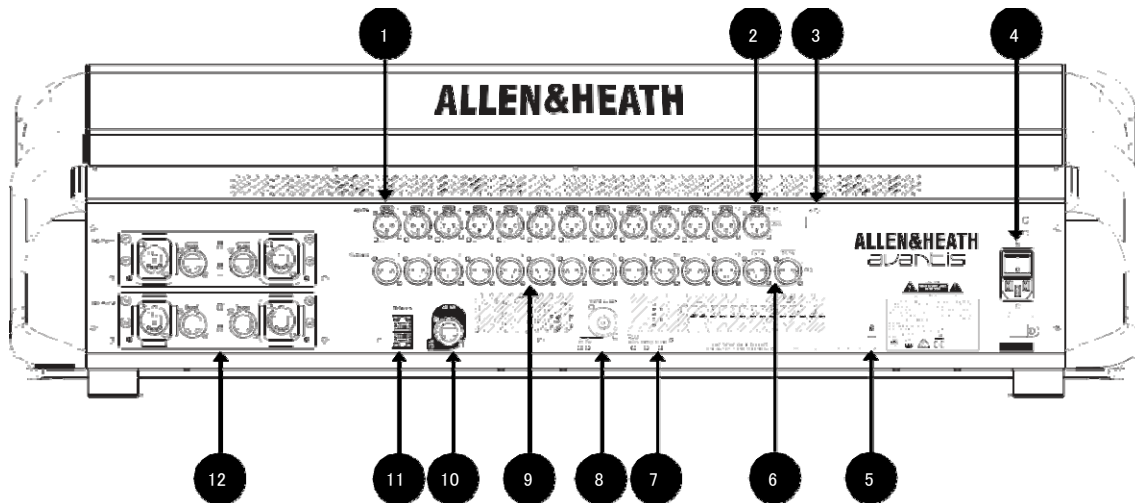
1. allen-heath.com/avantisにアクセスし、最新のファームウェアをAvantisにダウンロードしてインストールしたことを確認します。
2. shop.allen-heath.comに行き、Avantis dPackを選択し、ショッピングカートに追加します。
3. 右上のメニューバーのShopping Cartをクリックします。
4. Use Coupon Code(クーポンコードを使用)をクリックし、指定どおりにコードを入力し、Apply Coupon(クーポンを適用)をクリックします。
5. Checkoutをクリックし、プロセスを完了します。
6. チェックアウトが完了したら、Account Downloads page - My Account > Downloadsに移動します。
7. 画面の指示に従って、dPackアップグレードキーを生成し、コンソールに入力します。

Avantisを導入後、追加でdPackを購入したい場合は、shop.allen-heath.comを参照してください。

不明な点がございましたら、shopsupport@allen-heath.comからメールでショップサポートまでお問い合わせください。

<mailto:shopsupport@allen-heath.com>

4. リアパネル



1. マイク/ライン入力

バランスまたはアンバランスのマイク/ラインレベル信号を入力する12系統のリコール可能なプリアンプを備えた入力です。ゲイン、パッド、および48Vファンタム電源は、プリアンプ内でデジタル制御されます。PP(ファンタム・パワー)LEDインジケータは、ソケットでファンタム電源の電圧が検出されたときに、内部または外部からのソースに関わらず点灯します。

I/OまたはProcessing/Preamp画面を使用して、任意のソケットを任意の入力チャンネルにパッチできます。

2. デジタル入力

サンプリングレート32kHz~192kHzのステレオAES3入力です。サンプリングレート変換はバイパスも可能です。

I/OまたはProcessing/Preamp画面を使用して、任意のソケットを任意の入力チャンネルにパッチできます。

3. USB2.0ソケット

互換性のあるUSBデバイス挿入して、ショーファイルの保存と呼び出し、ファームウェアの更新、USB再生と内部録音のエキスポートを実行します。

4. 電源

電源端子、ヒューズ、On/Offロックスイッチを搭載しています。電源ケーブルを固定するために、プラスチック製のP-clipケーブルクランプが付属しています。ケーブルのスロットを所定の位置に挿入するか、トルクスT20ドライバーを使用してロックして、ケーブルの周囲にクランプを取り付けます。

※パネル上に印字された安全警告をご確認ください。

5. ケンジントンロック

盗難防止用として標準的なケンジントンロック用スロットです。

6. デジタル出力

44.1kHz、48kHz または96kHzで切り替え可能なステレオAES3出力です。I/O画面を使用して、任意の出力ソケットに信号をパッチできます。

7. ステータスインジケータ

電源ONインジケータです。電源投入後、出力ソケットがオーディオを通過できる状態になると、Readyインジケータが点灯します。Audio Syncインジケータは、有効なクロックソースが存在するときに点灯します。

8. ワードクロック入出力

オーディオクロックから同期する、または他のデバイスにクロックを提供するためのBNCコネクタです。In LEDおよびOut LEDは、現在のモードを示します。

9. ライン出力

12系統のラインレベル、バランス型のXLR出力です。定格レベルは+4dBuです。出力は電源オン/オフ時のノイズを防止するため、リレー保護されています。I/O画面を使用して、任意の出力ソケットに信号をパッチできます。

10. SLink

リモートI/Oエキスパンダーおよび/またはMEパーソナルモニタリングシステムに接続するSLinkポートです。サポートしているデバイスの詳細については、本書のエキスパンダーとの接続セクションを参照してください。

11. ネットワーク

2つのRJ-45ギガビットイーサネットポートです。ラップトップPCまたはワイヤレスルーターを接続して、Avantis EditorまたはiOSアプリで使用する。ネットワーク上のすべてのデバイスに互換性のあるIPアドレスが必要です。

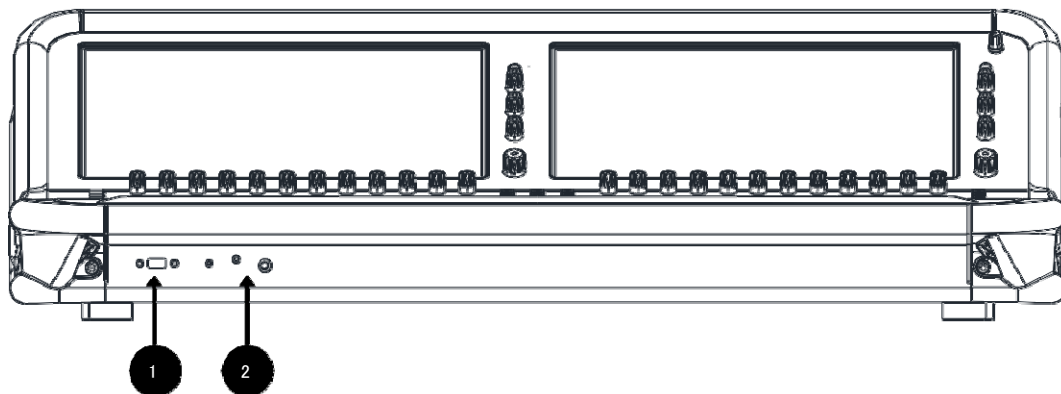
デフォルト設定は次のとおりです:

DHCP有効:	Off
IPアドレス:	192.168.1.80
サブネットマスク:	255.255.255.0
ゲートウェイ:	192.168.1.254

12. I/Oポート

2 オーディオインターフェイスポート(いずれも128x128チャンネルに対応)。システムの拡張、デジタル領域でのマイク入力スプリットによる録音、またはオーディオネットワーキングへのディストリビューションなどに使用できるオプションカードを取り付けられます。www.allen-heath.comを参照し、使用可能なオプションカードを確認してください。I/Oポートとの間で信号をパッチするには、I/O画面で設定を行います。<http://www.allen-heath.com/>

5. フロントパネル



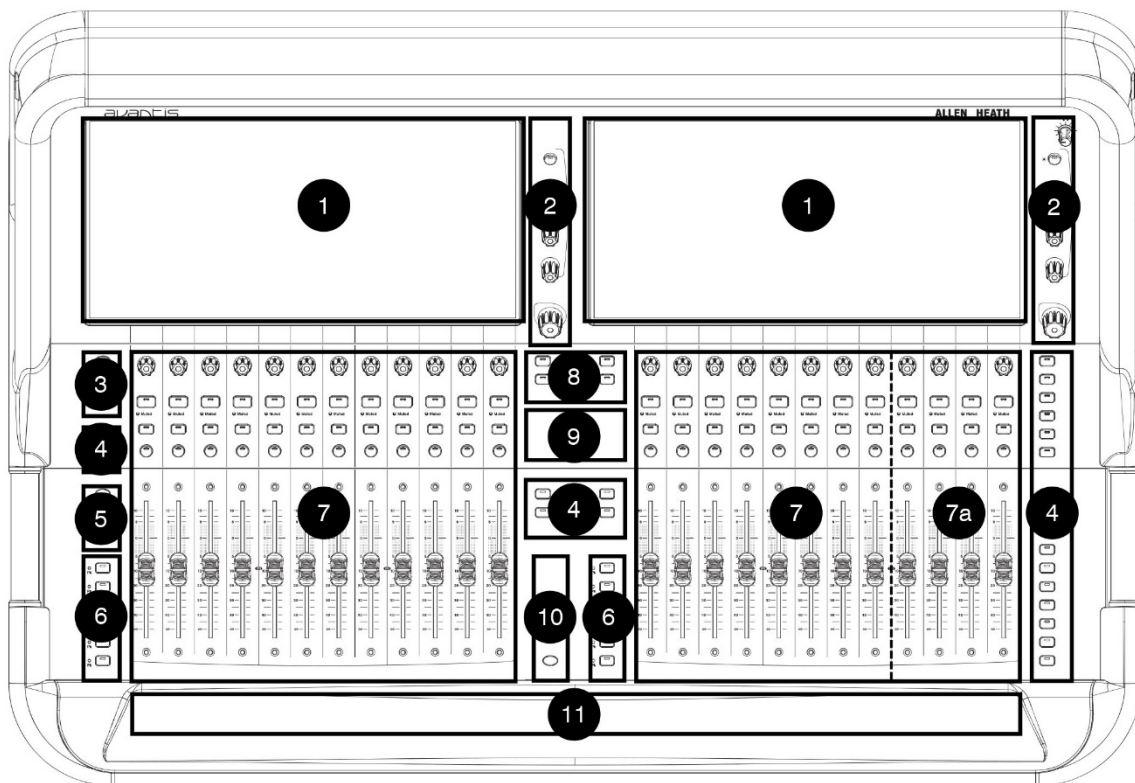
1. USB3.0ソケット

互換性のあるUSBデバイス挿入して、ショーファイルの保存と呼び出し、ファームウェアの更新、USBの再生と内部録音のエキスポートを実行します。

2. ヘッドホンソケット

標準の1/4インチフォーンおよび3.5mmステレオミニジャックソケットはアームレストの下にあります。

6. トップパネル



1. タッチスクリーン

15.6インチの静電容量式タッチスクリーンです。画面の詳細については、セクション10.9を参照してください。

2. スクリーンコントロール

ユーザー割り当て可能なパラメーターのコントロールです。詳細については、セクション10.9を参照してください。

3. Pre / Safes / Freeze

以下のスイッチを押してチャンネルステータスを切り替えます。

- Pre: Preを押したまま、チャンネルネームブロックをタッチして、アクティブなミックスへのセンドを、プリフェードとポストフェードの間で切り替えます。マスターミックスのネームブロックにタッチすると、全てのチャンネルをプリフェードとポストフェードの間で切り替えます。選択したチャンネルまたはミックスのアサインとプリ/ポスト設定は、ルーティング画面でも設定できます。
- Safes: Safesを押しながらネームブロックを押すと、チャンネルがシーンリコールから保護されます。パラメーターの選択のみを保護するには、Scenes/Global Safes画面で設定を行います。
- Freeze in Layers: Freeze in Layersを押したまま、ネームブロックを押すと、チャンネルがすべてのレイヤーにわたって所定の位置にロックされます。

4. ソフトキー

24個のユーザー割り当て可能なキーです。Setup/Control/SoftKeys画面を使用して機能を割り当てます。

5. Copy/Paste/Reset

- Copy: Copyを押したまま、以下のスイッチを押します。
 - チャンネルネームブロックを押すとチャンネルプロセッシング全体をコピーします。
 - タッチスクリーン内の任意のハイライト表示されたエリアを押すと1つのプロセッシングブロックの設定をコピーします。
 - ストリップ・ミックス・キー(strip Mix key)を押すと、ミックスアサインおよびセンドレベルをコピーします。
- Paste: Pasteを押し、ネームブロック、Mixキー、またはタッチスクリーンハイライト調表示されたエリアを押して、コピーした設定を貼り付けます。
- Reset: Resetを押し、ネームブロック、Mixキー、またはタッチスクリーンハイライト調表示されたエリアを押して、関連するパラメーターを工場出荷時のデフォルトにリセットします。Resetを押しながらフェーダーを上下に軽く動かすと、素早く0dBまたは0ffに設定できます。

6. レイヤー

バンクごとに6階層のフェーダーストリップにアクセスします。赤色のPk(ピーク)インジケータは、関連するレイヤーの任意のチャンネルがクリッピングの3dB以内にあるときに点灯します。したがって、レイヤー全体の信号の状況をモニタリングできます。Setup/Control/Surface Prefs画面を使用してバンクをリンクできます。レイヤーキーは、Linkがアクティブのときに両方のバンクに影響します。

7. フェーダーバンク

2つの12チャンネル・フェーダーバンクは、入力チャンネル、FXリターン、ミックスマスター、DCA、エンジニアのウェッジ/IEMモニター、またはMIDIの制御を行えます。詳細については、以下のセクション6.1を参照してください。専用のマスターセクション(7a)は、レイヤーを切り替えても常に固定されている4つのチャンネルストリップです。ストリップレイアウトはユーザーが割り当て可能で、シーンに保存されます。Setup/Control/Strip Assign画面を使用してストリップレイアウトを編集し、マスターセクションを有効にします。

8. ストリップ・ロータリーモード

フェーダーストリップのロータリーエンコーダーを選択します。フェーダーストリップのロータリーエンコーダーは、プリアンプゲイン、パン、アクティブなミックスへのセンド、およびアサイン可能な3つのコントロールを行えます。Setup/Control/Preferences画面でアサインします。ロータリーLEDの色は、アクティブな機能を表示します。例えばゲインは赤色、パンは黄色に点灯し、センドモード時のアクティブミックスの色に従います。センドは、ストリップ・ロータリー上のアクティブなミックスへのセンドレベルを制御し、フェーダーは、メインミックスへのチャンネルレベルを制御します(つまり「Sends on Faders」を一時的に無効にします)。

9. アサイン

Assignを押したまま、strip Mixキーを押して、ルーティングのアサインをオンまたはオフに切り替えます。詳細については、このガイドの後半を参照してください。

10. GEQのフェーダーコントロール

GEQをタッチしたまま、ミックスチャンネルのネームブロックをタッチして、フェーダーにGEQを表示します。周波数の値はネームブロック上に表示され、メーターは各周波数帯域のRTA状況およびピークバンドを表示します。アクティブな状態で、GEQを再度タッチすると、高周波数帯域と低周波数帯域の間で切り替わります。このモードでは、ミックスマスターフェーダーは右側のストリップに表示されます。

11. アームレスト照明

Setup / Control / Dimmerから照明の設定を行えます。

6.1 フェーダーストリップ



ストリップ・ロータリー: 前項で説明したストリップ・ロータリーモードキーを使用して、ストリップ・ロータリーの機能を選択します。ロータリーは、プリアンプゲイン/トリム、パン、アクティブミックスへのセンド、および任意で割り当て可能な3つの機能をコントロールできます。ロータリーLEDの色は、アクティブな機能を表示します。例えばゲインは赤色、パンは黄色に点灯し、センドモード時のアクティブミックスの色に従います。値はネームボックスディスプレイに表示されます。



Mute: チャンネル信号をオフにします。メインミックス、プリフェード、およびポストフェードセンドに影響します。信号をミュートすると、スイッチが点灯します。

○ Muted

Muted: DCAまたはミュートグループでチャンネルをミュートすると点灯します。



Mix: 関連するチャンネルまたはマスターのセンドレベルとアサインをフェーダーストリップ(またはロータリーがセンドモードの場合はストリップ・ロータリー)に設定します。

※現在アクティブなミックスは、プロセッシング画面の右上に表示されます。アクティブなMixキーを押して、メインミックスに戻ります。



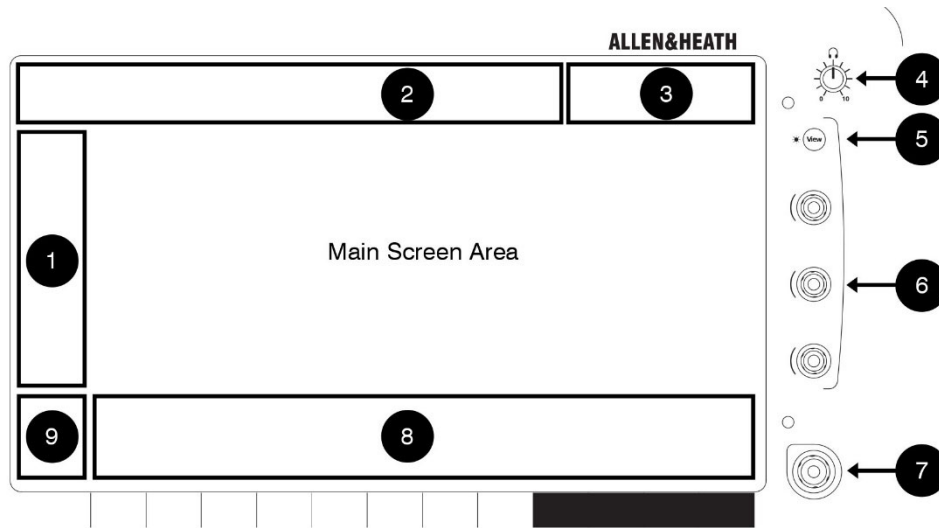
PAFL: チャンネルのPFL(プリフェード・リスン)またはAFL(アフターフェード・リスン)をヘッドホンおよびモニタリングシステムに送ります。PAFLシステムの環境設定は、Setup/Audio/PAFL画面で行います。

6.2 ディスプレイ

Avantisには、チャンネルプロセッシング、バンクの概要、セットアップユーティリティとステータス、メモリー管理メニューなどを表示する2つの画面があります。

各タッチスクリーンには、タッチ&ターン・ロータリー・コントロールに加えて、3つのユーザー設定可能なソフトロータリーを搭載し、素早く簡単にパラメーターを変更できます。

両方の画面は、互いに独立して動作します。そのため例えば、2つの別個のチャンネルプロセッシング画面を同時に見ることや、プロセッシングを一方のスクリーンで、IOパッチングを他方のスクリーン上で見ることができます。



1. 画面モード

スクリーンモードを選択します:

- **Bank:** フェーダーバンクとレイヤーに割り当てられているすべてのチャンネルの概要です。バンクビュー画面ではCopy、Paste、Reset、Freeze、Listenキーを使用できます。バンクビューのプロセッシングブロック(例えば、PEQ、ゲート、またはCompカーブ)にタッチすると、関連するプロセッシングページが開きます。
- **Processing:** 現在選択しているチャンネルのチャンネルプロセッシングにアクセスします。
- **Routing:** 選択したチャンネルのルーティングとアサインにアクセスします。
- **I/O:** クロスポイントをタップして、システムの入出力にパッチを適用します。
- **Ganging:** 最大16のギャンググループを作成し、選択したパラメーターを複数のチャンネルにリンクします。
- **Meters:** 入力、FX、およびミックスメーター、RTAスペクトログラム、および4つのカスタマイズ可能なメーター画面にアクセスします。
- **FX:** 12台のRackFXユニットを設定します。
- **Scenes:** シーンマネージャー、グローバルセーフ、その他のシーン設定にアクセスします。
- **Setup:** ミキサーのストリップレイアウト、バス構成、ソフトキー構成、ステレオ入力構成、ネットワーク設定、オーディオ設定、ユーザープロフィール、環境設定、サーフェイスの輝度設定などにアクセスします。
- **Utility:** ショーマネージャー、ライブラリマネージャー、ファームウェア・アップデート、システムの診断、フェーダーと画面の調整、MIDIパラメーターにアクセスします。

2. メニュータブ

選択した画面モードのメニューを表示します。

3. ステータスバー

特定の動作モード(Virtual Soundcheck、Solo In Place、Scene Update Auto Trackingなど)がアクティブな場合、またはシステムエラーが記録されている場合、アイコンを表示します。

4. ヘッドホンボリューム

ヘッドホン出力用のロータリーボリュームコントロール(右側のみ)です。

5. View

押してソフトロータリーで設定されているビューを切り替えます。

6. ソフトロータリー

パラメーターをコントロールするためにユーザーが任意で割り当て可能な3つのソフトロータリーです。

7. タッチ&ターンコントロール

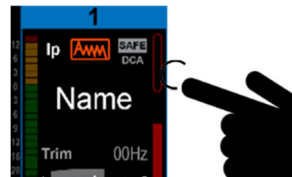
メイン画面エリアのパラメーターまたは設定をタッチし、つまみを回して値を調整します。現在選択されているパラメーターはオレンジ色で強調表示されます。

8. ネームブロック

名称、カラー、チャンネルタイプ、番号、メータリング情報、その他のチャンネル・パラメーターを表示します。

ブロックをタッチして、プロセッシング画面とルーティング画面で使用するチャンネルを選択します。選択すると、チャンネルストリップが緑色に強調表示されます。

各バンクで1つのチャンネルを選択できます。現在選択されているチャンネルは画面左上に表示されます。



9. スワイプメニュー/メーター

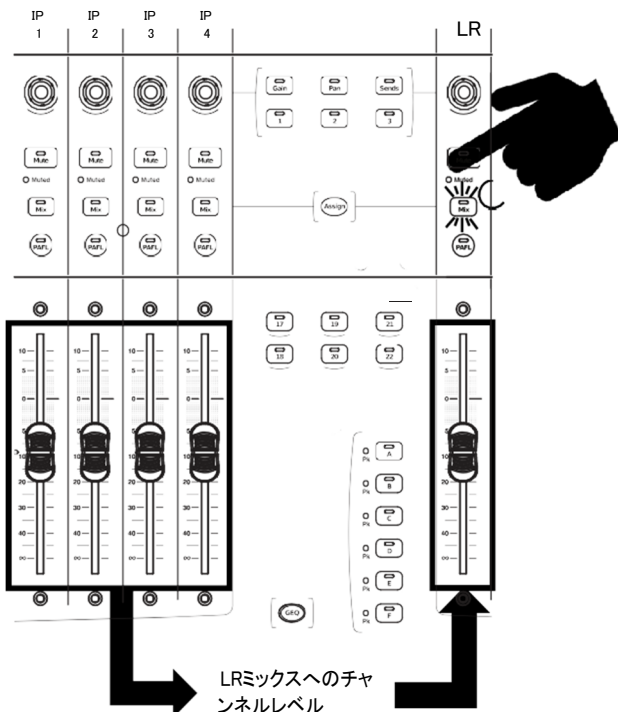
マルチページメニューをスワイプすると、PAFLメーターまたはその他のオプションが表示されます。メニューをスワイプするか、丸いページインジケーターにタッチして、ページ間をスクロールします。

- **Listen:** Listenを押しながら、画面の強調表示されている領域をタッチして、選択したチャンネルの信号経路上のポイントを検聴します。
- **Options:** Optionsを押したまま、画面の強調表示された領域をタッチして設定します。
- **Name/dB/IO:** タップして、ネームブロックモードを切り替え、ユーザー定義のチャンネル名、フェーダー位置(dB)、またはパッチされた送信元/宛先のI/Oソケット識別子を表示します。
- **Help:** タップすると、アクティブな画面のヘルプ項目が表示されます。
- **PAFLメーター**



7. ミックスの基本

7.1 メインミックスの操作

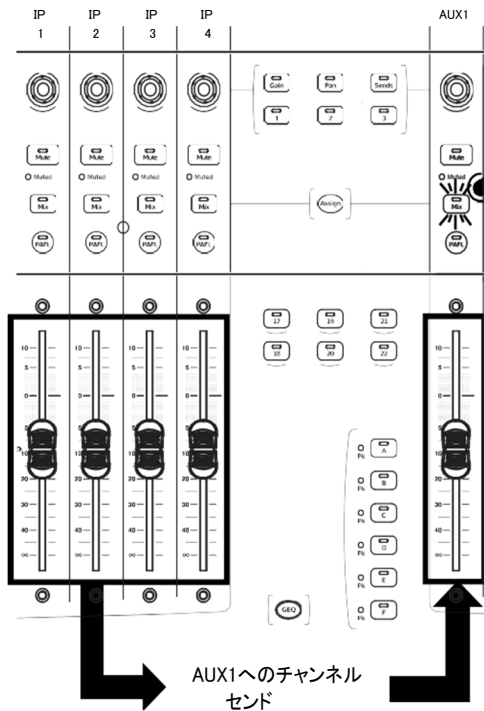


メインミックス(LRなど)マスターストリップのMixキーを押します。

これがデフォルトのミキシングモードです:

入力ストリップは、チャンネルフェーダーを提示します。マスターストリップはマスターミックスフェーダーを表示します。

7.2 センドの操作: マスターミックスモード



マスターストリップの Mixキー(AUX1など)を押し、AuxとFXのセンドを操作します。

入力ストリップは、すべてのセンドレベルをアクティブミックスに表示します。

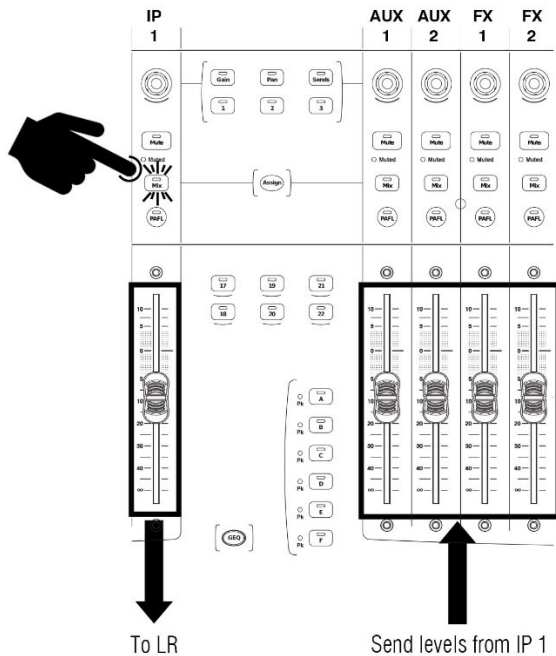
マスターストリップはマスターミックスフェーダーを表示します。

7.3 センドの操作: チャンネルミックスモード

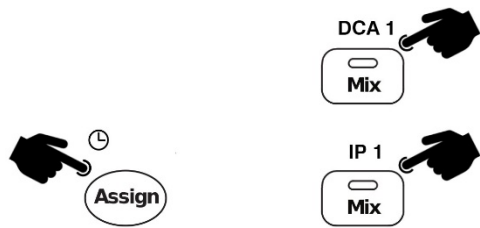
入力チャンネルストリップの Mixキー(IP1など)を押し、AuxおよびFXセンドを操作します。

入力ストリップは、チャンネルフェーダーとして残ります。

マスターストリップは、選択した入力チャンネルから全てのセンドを受ける形になります。



7.4 Mix、Group、DCAへのチャンネルアサインとアサイン解除

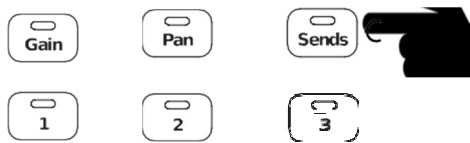


ミックス、Group、またはDCAマスターストリップ(例えば、DCA1)上のミックスキーを押します。

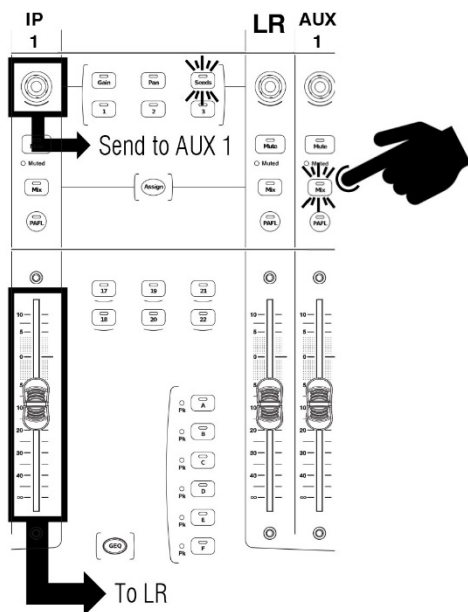
Assignキーを押しながらチャンネル・ミックス・キーを押すと、アクティブなミックスからアサイン/アサイン解除できます。アサイン状況は、ネームブロックに表示されます。

ミックスマスター上のMixボタンを押しながらAssignボタンを長押しすると、ミックスへのすべてのアサインをオンまたはオフにすばやく設定できます。

7.5 フェーダーセンドとロータリーセンドの切り替え



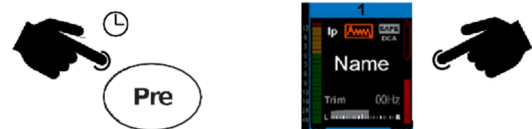
デフォルトのミキシングモードはフェーダーセンド(Sends on Faders)です。ロータリーセンド(Sends on Rotaries)を有効にするには、ストリップロータリーモードセクションのSendsボタンを押します。



ロータリーセンドモードでは、ストリップ上のロータリーを使用してアクティブミックスへのセンドレベルを制御し、チャンネルフェーダーはメインミックスへのレベル制御として残ります。

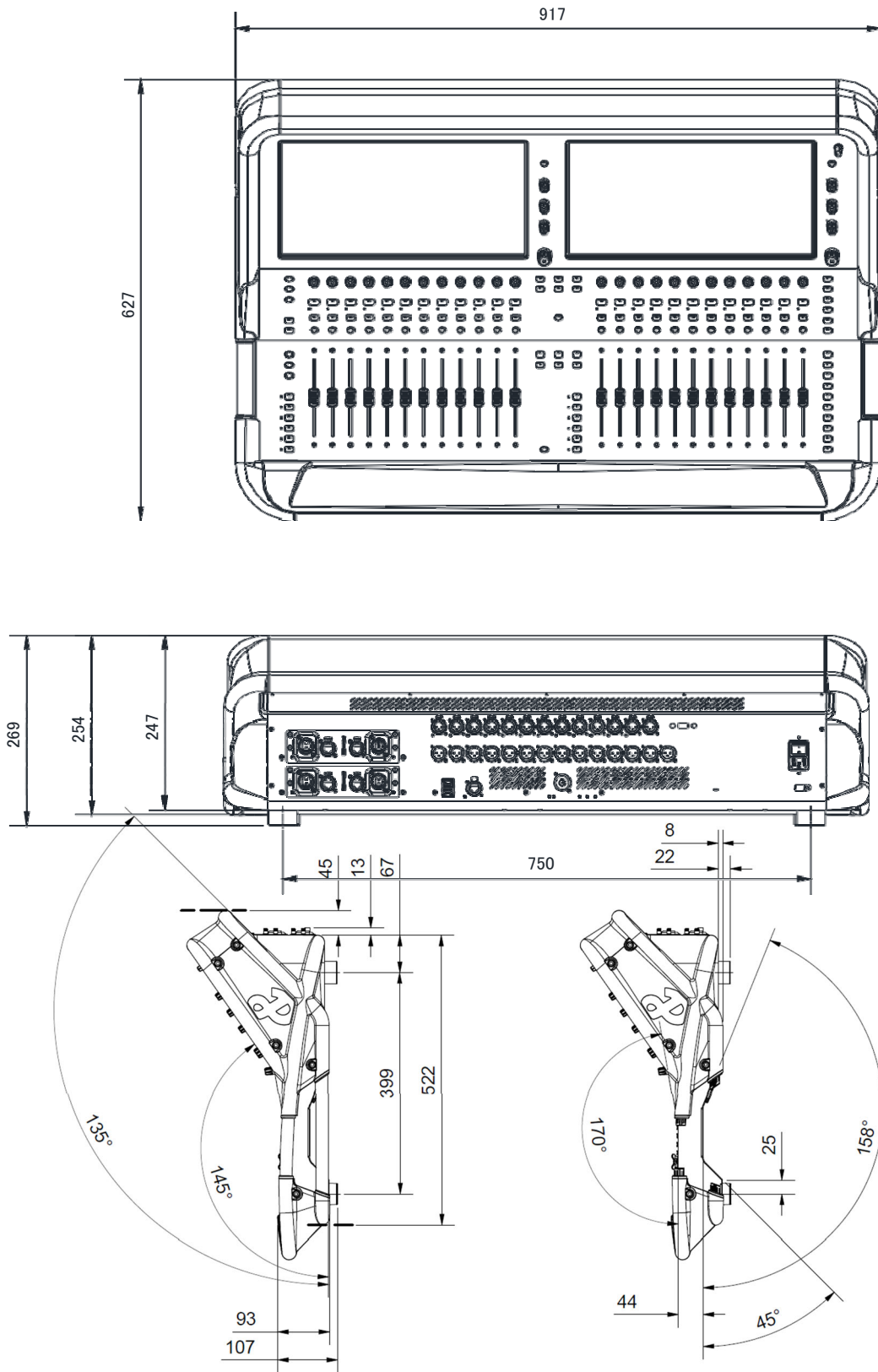
7.6 プリ/ポストフェーダーセンドステータスの設定

Preキーを押したまま、チャンネルのネームボックスをタッチすると、各ソースのプリフェーダーまたはポストフェーダーが切り替わります。ネームブロックの下部に現在のプリ/ポスト状況が表示されます。



Preを押したまま、ミックスマスターのネームボックスをタッチすると、すべてのアサインのフェーダーをプリまたはポストで切り替えることができます。

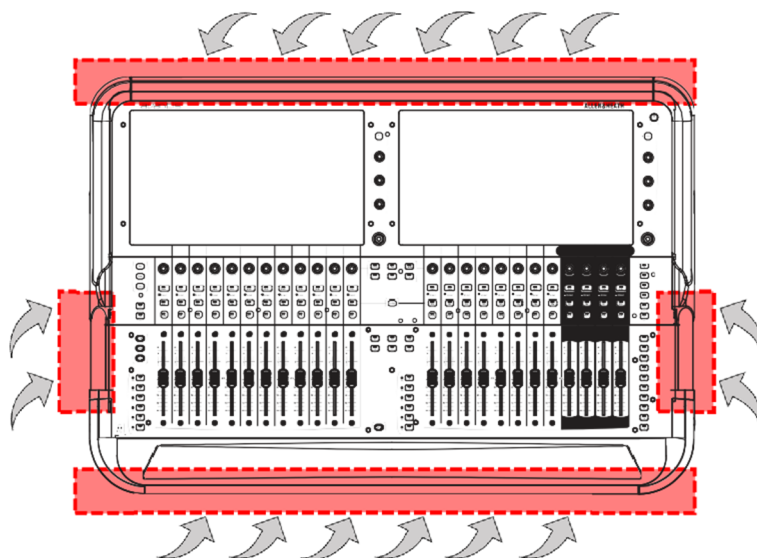
8. 寸法



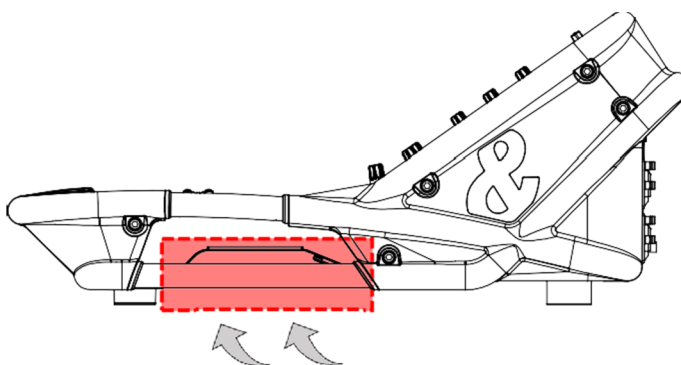
9. フライトケースに関して

ミキサーから4つのゴム足を取り外さないでください。

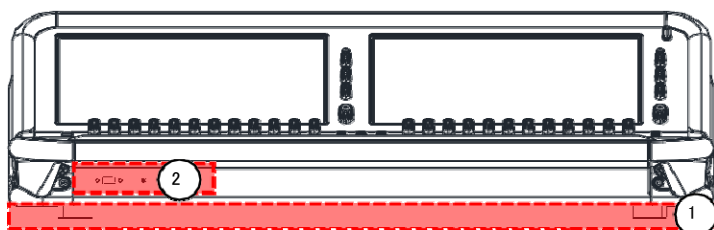
ミキサーの前面、背面、および側面にある通気口(↗)および接続用の十分な空間を確保してください。



表示されている領域のミキサーの側面には、通気口(↗)のための十分な空間を残してください。



(1)通気口(↗)、および(2)ミキサー前面のUSB/ヘッドホン接続に十分な空間を残してください。



(1)通気口(↗)および(2)ミキサー後部のオーディオ/電源接続に十分な空間を残してください。



10. エクスパンダー、I/Oカード、コントローラー

Avantisは、多様なエクスパンダー、I/Oカード、パーソナル・モニタリングミキサー、リモートコントローラーと互換性があります。詳細については、Allen&Heathのウェブサイトをご覧ください。最寄りの代理店にお問い合わせください。

10.1 エクスパンダー

	サンプリングレート	入力	出力	接続
GX4816	96kHz	48	16	SLinkポート、gigaACEカード
DX32	96kHz	最大32		SLinkポート、DXリンク、DX-HUB
DX168	96kHz	16	8	SLinkポート、DXリンク、DX-HUB
DX164-W	96kHz	16	4	SLinkポート、DXリンク、DX-HUB
DX012	96kHz	0	12	SLinkポート、DXリンク、DX-HUB
DT168	96kHz/48kHz	16	8	Danteカード
DT164-W	96kHz/48kHz	16	4	Danteカード
DX-HUB	96kHz	128	128	SLinkポート、gigaACEカード
AR2412	48kHz	24	12	SLinkポート
AR84	48kHz	8	4	SLinkポート
AB168	48kHz	16	8	SLinkポート

エクスパンダーシリーズの詳細については、allen-heath.com/everything-io/をご覧ください。

10.2 I/Oカード

Dante64x64	64x64	96kHz/48kHz	Danteオーディオネットワークカード
Dante128x128	128x128	96kHz/48kHz	Danteオーディオネットワークカード
gigaACE	128x128	96kHz	dLive/Avantisのポイントツーポイント接続
fibreACE	128x128	96kHz	マルチモード光ファイバーを介したgigaACE
DXリンク	128x128	96kHz	DXエクスパンダーインターフェース
Waves3	128x128	96kHz/48kHz	Waves SoundGridオーディオネットワークカード
superMADI	128x128	96kHz/48kHz	オプティカル・同軸MADIインターフェース
AES4i6o	4x6	96/88/48/44.1kHz	4in, 6out, AES3オーディオインターフェース
AES10o	0x10	96/88/48/44.1kHz	0in, 10out, AES3オーディオインターフェース
AES6i4o	6x4	96/88/48/44.1kHz	6in, 4out, AES3オーディオインターフェース
AES2i8o	2x8	96/88/48/44.1kHz	2in, 8out, AES3オーディオインターフェース

10.3 リモートコントローラー

IP1	リモートコントローラー。デュアル機能のロータリーエンコーダーを1つ搭載。
IP6	リモートコントローラー、プッシュ&ターン式ロータリーエンコーダー6個搭載。
IP8	8台の電動フェーダーを備えたリモートコントローラー。GPIO
GPIO	インターフェースを備えたリモートコントローラー。

10.4 パーソナルモニタリングシステム

ME-500	16チャンネルパーソナルミキサー
ME-1	40ソースパーソナルミキサー
ME-U	パーソナルモニタリングハブ

詳細については、allen-heath.com/me/を参照してください。

11. 仕様

入力

マイク/ラインXLR入力端子	バランス型XLR、+48Vファンタム電源
マイク/ラインプリアンプ	フルリコール
入力感度	-60~+15dBu
アナログゲイン	+5+~60dB(1dBステップ)
パッド	-20dBアクティブ
最大入力レベル	+30dBu(パッド入力)
入力インピーダンス	>4kΩ(パッド出力)、>10kΩ(パッド入力)
マイク等価入力ノイズ	-127dB(150Ωソース)
ファンタム電源表示	ソケットごと、内部または外部のファンタム電源検出、+24Vでトリガー
デジタル入力	AES32Ch XLR、2.5Vppバランス終端110Ω SRC範囲24ビットレート、32k-192kHz、ハイパスオプション付き

出力

アナログXLR出力端子	バランス型、リレー保護
出力インピーダンス	<75Ω
定格出力	+4dBu=0dB(メーター読取)
最大出力レベル	+22dBu
残留出力ノイズ	-95dBu(ミュート、22-22kHz) -90dBu(ミュート、0~80kHz)
デジタル出力	AES32Ch XLR、2.5Vppバランス終端110Ω 96kHz サンプリングレート 48kHz、44.1kHzにグローバルに切り替え可能

システム

測定バランスXLR入力→XLR出力、22-40kHz、最小ゲイン、パッド出力	
ダイナミックレンジ	109dB
システムシグナルノイズ	-92dB
周波数特性	20Hz-30kHz(+0/-0.8dB)
THD+N (アナログ入力から出力)	0.0015%@+16dBu出力、1kHz 0dBゲイン
ヘッドルーム	+18dB
内部オペレートレベル	0dBu
dBFSアラインメント	+18dBu=0dBFS(+22dBu@XLR出力)
メーターキャリブレーション	0dBメーター=- 18dBFS(+4dBu@XLR出力)
メーターピーク表示	-3dBFS(+19dBu at XLR out)
サンプリングレート	96kHz

動作温度	0°C~40°C
電源	100-240V AC、50~60Hz、最大150W
USB/オーディオプレイバック	モノラル/ステレオ.wavファイル (16/24ビット、44.1/48/96kHz)MP3ファイル FLACファイル
USBオーディオエクスポート	ステレオ.WAVファイル、 (24bit 96kHz)

寸法・質量

W×D×H 917x627x269mm

質量 26kg

ALLEN & HEATH

- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- 商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- 掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- 記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563
E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <https://www.hibino-intersound.co.jp/>

2024年8月版